



1 巡検のお知らせ

次のように巡検を行います。ふるってご参加ください。

【日時】7月30日(日) 午前9時集合(小雨決行、中止の時はホームページに掲載します。 問い合わせ)

【集合場所】こくふ交流センター駐車場、JR飛騨国府駅の横

【行き先】上宝・高原川流域

こくふ交流センター → 十三墓峠 → 石仏 → 笠石(吉野)
→ 藁石(岩井戸) → 杖石(細越) →
道の駅(奥飛騨温泉郷・昼食) → 石灰岩・古生代化石(一重ヶ根)
平湯大滝 → 銚子滝 → 御前石(日面) → 町方
→ こくふ交流センター

【持ち物】昼食、ハンマー、カメラ、野帳、帽子、日焼け止め、雨具、新聞、ビニール袋 など

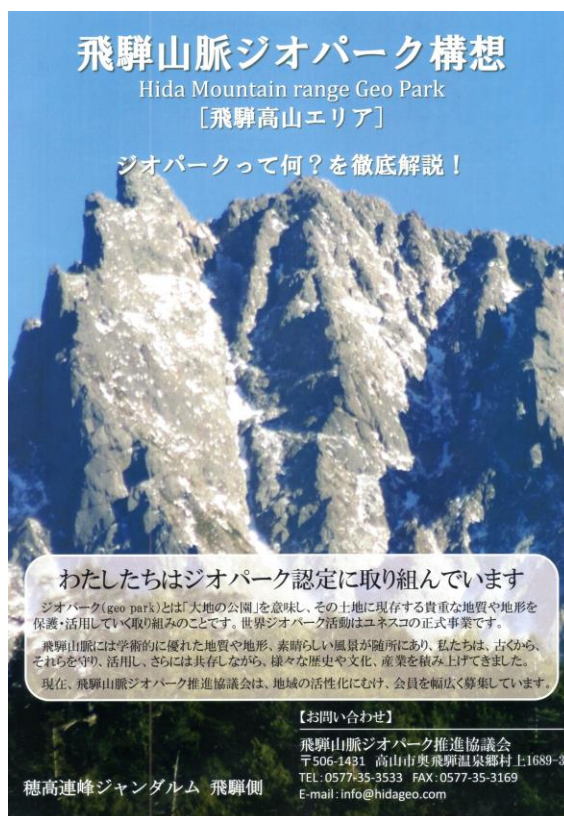
2 7月2日、談話会の報告

さる7月2日にこくふ交流センターで談話会が開催されました。参加者は、下畑顧問ほか、岩田、打江、鷺見、山下、寺門、直井、北村、三宅、中田でした。

まず、直井さんから高山市の飛騨山脈ジオパーク構想の進展状況を説明していただきました。高山市のジオパークの事務局が、上宝一重ヶ根に作られ、松田さん(局長)、谷口さん(局員)、直井さん(非常勤専門職)の3人でジオパーク認定に向けて動き出しました。現在、飛騨山脈ジオパーク推進協議会を作り、入会を募集しています。

またジオパーク案内人の候補者を募り、ジオトレックとして、講習会を月1回のペースで始めました。すでに6月に、栃尾の飛騨外縁帯、手取層で講習会を行いました。7月には、西穂高ロープウェイを利用して西穂山荘付近まで行く予定とあります。

高山市上宝の栃尾小学校では、昔から焼岳の砂防学習を行っており、ジオパーク応募のプレゼンには、小学生の発表も検討されているそうです。

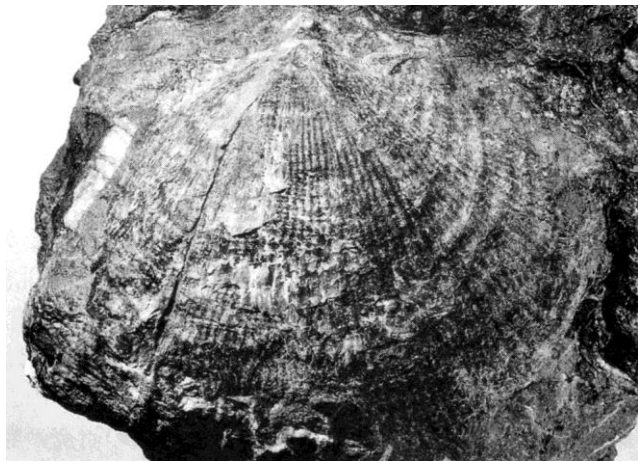


飛騨山脈ジオパーク協議会パンフレットの表紙

飛騨地学研究会は、当面、ジオパークの知識の普及のため、高山市広報紙にジオサイト（見どころ）案内を連載することになりました。文字数は400字くらい、写真を1枚つけ、一般の方に読んでいただけるような平易な内容で書くことになりました。執筆分担、見本等は、寺門事務局長を中心に、中口会員、中田会員が8月末をめどに準備します。研究会のホームページに掲載し、記事が集まってから（10月目標）、高山市広報紙に掲載を始めます。

次に、ジオパークに関連して、高山市奥飛騨温泉郷付近の巡検について相談しました。最初は、焼岳登山という案もありましたが、会員の高齢化もあり、とりあえずは体力を要しない巡検ということで、前記のように決まりましたのでよろしくお願いします。

最後に、三宅会員が掲載した「飛騨外縁帯の上部古生界腕足類化石 1」の紹介がありました。三宅会員の特殊技術（塩酸、加熱）によって、飛騨外縁帯から産出した化石です。この発見により飛騨外縁帯の化石は、北中国東縁の大陸棚由来であることがわかりました。これに対し、近くの丹生川等で見つかる古生代化石は、現在のハワイやアメリカ方面の海洋性の化石であり、起源が異なるということでした。飛騨外縁帯も美濃帯も、プレートに乗ってやってきた付加体だと知っていましたが、数十km離れるだけで隣接した石灰岩の起源が全然違うことが面白く感じられました。



一の谷層の腕足類化石

三宅幸雄(2017)：化石の友、NO62,5-14 より

3 事務局だより

飛騨山脈ジオパーク推進協議会へは、飛騨地学研究会として入会（団体会員）することになりました。1口1000円です。個人としても入会可能です。入会希望の方は連絡してください。パンフレットと申し込み用紙をお渡しします。

九州豪雨は、たいへんな災害になってしまいました。豪雨の原因として線状降水帯が停滞したためといわれます。山地の風下に風が収束して、積乱雲が1列に並び、この状態が続くことで豪雨になります。花崗岩地帯が崖崩れをもたらしているともニュースで聞きました。花崗岩は、もろくて風化しやすく、多量の水を含みやすいからです。飛騨にも、花崗岩地帯があります。改めて、地震、火山、豪雨と、日本は災害国だと思いました。災害地の復興を願うばかりです。